

副センター長（工作部門担当） 文字 秀明

一昨年からコロナ禍の状況にあり、研究や教育、学生の課外活動など大学全体の活動様相が大きく変わっています。工作依頼の状況を見ますと、昨年度の前半は例年に比べ依頼件数が少なく、後半は増加し、年間を通しては例年並みでした。ここで、例年というのは、新型コロナウイルス感染が始まる前の状態を指しています。今年度は、まだ最終状態は分かりませんが、例年とあまり変わらない依頼件数で推移しています。これを見ますと、昨年の夏には第5波が、今年1月には第6波がやってきて、学生の感染も多く報告され、一昨年に比べ、新型コロナウイルスが筑波キャンパスに近づいてきたことをひしひしと感じられるようになってきたにもかかわらず、研究・教育活動の状況は一昨年とは異なっているようです。一昨年は新型コロナウイルス感染の拡大が初めてのことで、活動が停滞し始めたようでしたが、昨年から今年にかけては対応方法がわかり、研究・教育活動が維持されているように見受けられます。

工作部門でも、コロナ禍でも活動が滞らないようにオンライン対応窓口の充実を図ってきました。オンライン対応は従来から計画されていましたが、新型コロナウイルス感染対策のためにその実装が加速されました。オンラインによる対応は利用者にも歓迎されているようですので、今後も維持・拡大されていくものと思います。工作部門では、その活動を止めないように、また新型コロナウイルス感染拡大前に戻るように努力しています。引き続き、皆様には工作部門をご利用いただきたくお願い致します。